

7月6日、山形銀行本店で「第7回白鷹紅花まつり展」が開催されました。当日、本店ロビーでオープニングセレモニーが行われ、その後、銀行を訪れたお客さまなどに切り花のプレゼントがされました。また、本店入口付近に特設の物産展スペースを設置し、紅花（切り花や若菜干し）や町内産のお菓子などの販売が行われ、買い求める人でぎわいました。この展示は、1週間後に控えた紅花まつりのPRのために実施されているものです。

同日午後、町長と町観光協会会長などが県庁を訪問し、吉村知事に紅花を手渡し、紅花のしらたかをPRしました。



プレゼントされたかたも自然と笑顔に

紅花の里を

訪ねて

第16回白鷹紅花まつり



小さな踊り手による舞踊の披露

7月10日、11日、第16回白鷹紅花まつりが滝野交流館を主会場に行われ、荒砥高校吹奏楽部の演奏や花柳千優良舞踊団の踊り、畔藤田植え踊りなどが会場を盛り上げました。萩野大日堂では、お堂をバックに小さなかわいいうつろ手をカメラに収めようとたくさんのかメラマンでにぎわっていました。また、県内外からたくさんのお客さまが会場や紅花畑を訪れ、紅花染め体験や交流館のそばを楽しんでいました。

夏はベニバナ

子ども郷土芸能代表として

萩野子獅子、東京に舞う



萩野子獅子独特の踊り

ちろん、高校生も熱心に参加してくれました。

踊りは、8月7日・8日の2日間披露され、小学3年から中学3年までの26人が上京します。地域の思いがこもった元気な獅子踊り（郷土芸能）を、東京の地で華麗に披露していただきたいと思えます。

獅子頭は、故小関太郎校長から寄贈され、以来30年以上の歴史がある踊りです。

（子どもたちの踊りは、8月14日、萩野大日堂でご覧いただけます。）

また、8月2日、町長より保存会に対して激励金が手渡されました。

全国水土里ネットが主催する「水土里の学校（親子で学ぶふるさと）のチカラ」（会場：東京日本橋の三越本店）で、萩野子獅子保存会の獅子踊りが披露されます。子どもたちによる獅子踊りは全国でも珍しいということ、郷土芸能を代表として踊ることになりました。

会場のステージが狭いということから、若干踊りを変更する必要があったため、子どもたちは7月上旬から毎週3回の練習を繰り返し本番に臨みます。地元の踊りを披露するまたとないチャンスというところで、大人の指導者も



激励金交付式の様子